国際教育協力懇談会報告の概要

文部科学省大臣官房国際課

平成18年10月

国際教育協力懇談会 概要
（2006.2～2006.8）

背景

●初等教育の完全普及など、教育に係る国際的目標達成への課題、
貧困・飢餓、感染症、災害、エネルギーといった地球規模の問題が顕在化

●国内外における我が国の「大学の知」をはじめとする経験や知見に対する
期待の高まり

●国際協力を通じた日本の大学の個性化・活性化への取組

懇談内容

今後の教育協力のあり方（教育分野での国際貢献）

我が国の大学が有する「知の活用方策」等

↓

報告

最終回(2006.8.30)に文部科学大臣へ報告書を提出

国際教育協力懇談会 協力者

荒木光彌	（株）国際開発ジャーナル社代表取締役・主幹
内海成治	大阪大学大学院人間科学研究科教授
片山信彦	（特活）ワールド・ビジョン・ジャパン常務理事・事務局長 教育協力NGOネットワーク代表
木村　孟	**（独）大学評価・学位授与機構長　（ 座 長 ）**
工藤高史	（社）日本経済団体連合会産業第三本部長 （前（社）日本経済団体連合会国際協力本部長）
工藤智規	公立学校共済組合理事長（元高等教育局長）
白石　隆	政策研究大学院大学副学長
千野境子	（株）産経新聞社論説委員長
廣里恭史	名古屋大学大学院国際開発研究科教授
弓削昭子	国連開発計画駐日代表
渡辺利夫	拓殖大学長・大学院長

国際教育協力懇談会 報告書概要

ポイント

我が国の大学が有する知的な援助リソース（研究成果や高度人材育成機能）を活用し、国として知的な国際貢献を推進することを提案

Ⅰ

【議論の背景】

国際教育協力をめぐる課題とそれに対する基本的な取組の方向性

Ⅱ

【我が国の特色が活きる戦略的な教育協力の推進】

・我が国の知見・経験を活用し、途上国の基礎教育の質的向上・持続的発展に貢献する必要性

・アジア中心に、高等教育・職業教育分野の協力を戦略的に展開する必要性

Ⅲ

【我が国の大学が有する「知」の活用】

大学の「知」を活用した国際貢献のための「知的コミュニティ」構築の必要性

懇談会での議論の状況　Ⅰ．議論の背景

教育協力を中心とした援助における課題

・ 貧困、感染症、災害、環境等の**地球規模の課題解決**の必要性

・ **政府全体の援助の戦略**に沿って省を超えたODA事業を実施する必要性（**ODAの戦略的実施**）

・「我が国の経験が活用できること」、「日本に比較優位があること」、「相手の目線に立つこと」により、**より良い質の援助を行う必要性（我が国ODAにおける量から質への転換）**

我が国の教育における課題

・ 教育全般を通じた**国際化・グローバル化**への対応

・ アジア地域を中心とした**高等教育需要への対応**

・ 国際開発協力への参画を通じた**我が国の教育改善・大学改革**

懇談会での議論の状況
Ⅱ．我が国の特色が活きる戦略的な教育協力の推進（1）

今後の教育協力の基本的な方向性

基礎教育分野に係る協力体制の整備・充実

・　日本の得意分野を見極めた上で、我が国が有する教育上の知見・経験の中でも、国際的に比較優位を有する分野や高い効果が見込まれる国を選択し、途上国の教育の量的・質的向上、持続的発展を促す

高等教育・職業教育分野への戦略的な取組

・　基礎教育協力と高等教育協力は分けて考えるべき。基礎教育は国際的潮流を踏まえ、人道的援助でもよいが、**高等教育協力は戦略的に行うべき**

効果的・効率的な教育協力の推進（共通事項）

・　限られたリソースで援助を効果的に実施するためには、教育協力においても日本としての戦略を持って必要な分野に資源を集中することが必要

懇談会での議論の状況
Ⅱ．我が国の特色が活きる戦略的な教育協力の推進（2）

取組を期待する方策（1）

基礎教育分野における質的向上・持続的発展の促進

- 青年海外協力隊現職教員特別参加制度などによる教員の派遣の一層の促進

- 理数科教育や教育行財政など我が国が比較優位を有する分野で教育上の知見や経験のオープンリソース化　→　**「拠点システム構築事業」の推進**

- 南南協力を支援するため、教育関係者が形成してきた途上国の人的・組織的ネットワークに関する情報や教育上のノウハウを提供

※「EFA達成のためにはサブサハラアフリカ地域への教育協力方策を検討することが重要」との意見もあった

→基礎教育分野における取組として、「拠点システム構築事業」などにおいて、引き続き着実に推進

懇談会での議論の状況
Ⅱ．我が国の特色が活きる戦略的な教育協力の推進（3）

取組を期待する方策（2）

高等教育・職業教育分野における協力の拡大

・ 大学において途上国の地域研究に対する取組を強化し、研究拠点を形成するなど、**我が国の大学の国際展開と整合性を図り、大学関係者等による息の長い協力・交流**を促進

・ 途上国の持続的成長を支援する観点から基礎教育後の教育への協力体制整備を図るべき

・ 日本が有する中間管理層育成を活かし、アジア地域の人材養成協力を図るなど、**アジア地域を中心に我が国の高等教育・職業教育分野における知見・経験の共有化**を図るべき

懇談会での議論の状況
Ⅱ．我が国の特色が活きる戦略的な教育協力の推進（4）

取組を期待する方策（3）

我が国教育関係者の連携の促進等（共通事項）

・ 国際教育協力への関心を広げるためにも、大学にプログラムオフィサーを育成したり、国際機関に職員を送り込めるような人材を大学で養成したりするなど、**NGO、援助機関、大学等が連携して行う国際開発協力に係る人材育成の強化**

・ 我が国が比較優位を有する分野について、**ユネスコその他の国際機関との連携の促進**

・ 援助を通じて得た様々な経験を日本社会にフィードバックするため、NGOと学校現場との連携を推進したり、学校教育における開発教育の明確な位置づけを図るなど、NGO、援助機関、大学、学校現場、教育委員会の連携による**国際理解教育の充実**

・ 地域における外国人のための日本語教育の充実

懇談会での議論の状況
Ⅲ．我が国の大学が有する「知」の活用（1）

大学の知を活用する意義・役割

大学の知を活用する意義

・　国際協力を社会貢献としてだけではなく、**教育・研究機能と一体で考える**ことで、大学らしさが発揮できるのでは

・　現在は自然科学・工学系の人材育成支援が中心だが、途上国の成長を支えるという観点から、人文・社会科学系人材育成の支援も必要

大学が担う役割

・　途上国のニーズと大学が有する援助リソースの双方をオープンにし、**相互のマッチングを行う**ことが必要

・　**「知的コミュニティ」構築**に向け、大学間ネットワークに加え、援助機関・政府機関等の関係者が一体となることが必要

留意事項

・　大学自らの個性・特色を踏まえつつ、国際協力に参画するに当たっては、国際協力を業務として位置付け、**学内におけるサポートと組織的な体制整備**を進めることが必要

懇談会での議論の状況
Ⅲ．我が国の大学が有する「知」の活用（2）

取組を期待する方策（1）

大学の知を活かし得る体制の整備

・ 大学の**援助リソースや途上国のニーズを一覧化**し、援助機関と大学とが**情報共有・意見交換できる場を整備**するべき　→ **「知の見本市機能」の創設**

・ 大学だけでなく、**援助機関とネットワーク化**を進め、All JAPAN で国際協力に参画できる仕組みづくりの促進が必要　→ **「知的ネットワーク」の形成**

・ **大学間コンソーシアムを構築**し、国際協力活動に伴う教員不在を補うシステムを導入すべき

・ 国際協力活動の企画・実施を担当する**プロジェクトコーディネーターの発掘・育成**

大学の国際協力活動への支援

・ 大学として、教員が成長するようなプロジェクトに積極的に参画し、終了後も、途上国と継続した関係を構築できるよう、大学の「知」を活かすという発想が必要

・ 途上国のニーズに応じて**研究成果等の改善や実証・実験を行う**ことが必要
→ **大学の援助リソース活用のための支援**

・ 国際協力に実証研究等の研究調査の側面から参画できるようにすべき

懇談会での議論の状況
Ⅲ．我が国の大学が有する「知」の活用（3）

取組を期待する方策（２）

大学に求められる改善事項

・ 研究と教育が中心の大学において、国際協力参加を促進するための方策を考えるべき

・ 国際協力に参画する大学は、国際協力活動を本来業務として位置づけ、従事する**教員の活動実績への適切な評価**と、**教員組織・事務組織の体制整備**を行うべき

サポートセンターの抜本的見直し

・ **サポートセンターの機能強化**や応用研究資金提供に加え、大学と国際機関・援助機関とを結ぶ中間組織としての機能が必要

・ 援助機関と大学双方の仕組みのすり合わせ、両者を繋ぐ専門家が必要

→ **「目利き人材」によるコンサルテーション**

・ サポートセンターと分野別国際教育協力研究センターとがこれまで以上に連携強化していくことが必要

・ 知を活用したより幅広い国際的な仕事をするためのコンサル機能も持つべき

国際教育協力懇談会報告 2006
大学発 知のＯＤＡ　～知的国際貢献に向けて～

課題

ＯＤＡにおける課題

- ○ 貧困、感染症、災害等の地球的規模の課題解決のための知的貢献
- ○ 我が国ODAにおける量から質への転換
- ○ 良好な外交関係の構築のためのODAの戦略的な実施

我が国の教育における課題

- ○ 教育全般を通じた国際化・グローバル化への対応
- ○ アジア地域を中心とした高等教育需要への対応
- ○ 国際開発協力への参画を通じた我が国の教育改善・大学改革

双方の課題に応えるための **知的国際貢献** の必要性

具体的方策

戦略的な教育協力の推進

- ◆ 理数科教育など教育経験のオープンリソース化
- ◆ アジア中心に高等教育・職業教育分野の戦略的展開（息の長い協力、交流の促進）
- ◆ NGOや教育関係者等の連携強化
- ◆ 国際開発協力に係る人材の育成
- ◆ 初等中等教育における国際理解教育の充実

大学が有する「知」の活用

- ◆ 国際貢献のための「知的コミュニティ」の構築
  - ・「知の見本市機能」の創設
  - ・「知的ネットワーク」の形成
  - ・「目利き人材」によるコンサルテーション
  - ・プロジェクトコーディネーターの育成
- ◆ 大学が有する援助リソース（研究成果や高度人材育成機能）活用のための支援

国際開発協力サポートセンター・プロジェクトによる支援

国際協力イニシアティブ

（平成１９年度概算要求資料）

★ サポートセンタープロジェクト ★

大学の知の活用促進事業
（経験のオープンリソース化）

我が国の教育経験の提供

我が国の教育経験や教育協力経験を整理・蓄積し、途上国協力関係者に提供

大学の援助リソース活用のための支援

大学の援助リソースを新たに国際協力に活用するために必要な資金の提供

大学の知

大学の援助リソースの情報収集・提供

見本市

在京・在阪大使館/援助関係者/国際機関

「大学の知」の紹介

ワークショップ

途上国関係者/援助機関/大学

ニーズ把握・情報共有・意見交換

コンサルテーション

分野別　知的ネットワーク会合

目利き人材

大学が有する知的な援助リソースに関し、大学や民間組織のOBなどのシニア人材も活用し、専門的見地から技術的なアドバイス等の実施

選定・評価

事業選定委員会

事業評価委員会

サポートセンタープロジェクト本部

プロジェクト総括・プロジェクトコーディネーターの育成・事業等の実施

プロジェクトコーディネーター育成のため、大学・NGO等から研修生受け入れ予定

国際協力イニシアティブ有識者会議

大学・行政・援助機関・NGO等で構成

目利き人材の活用

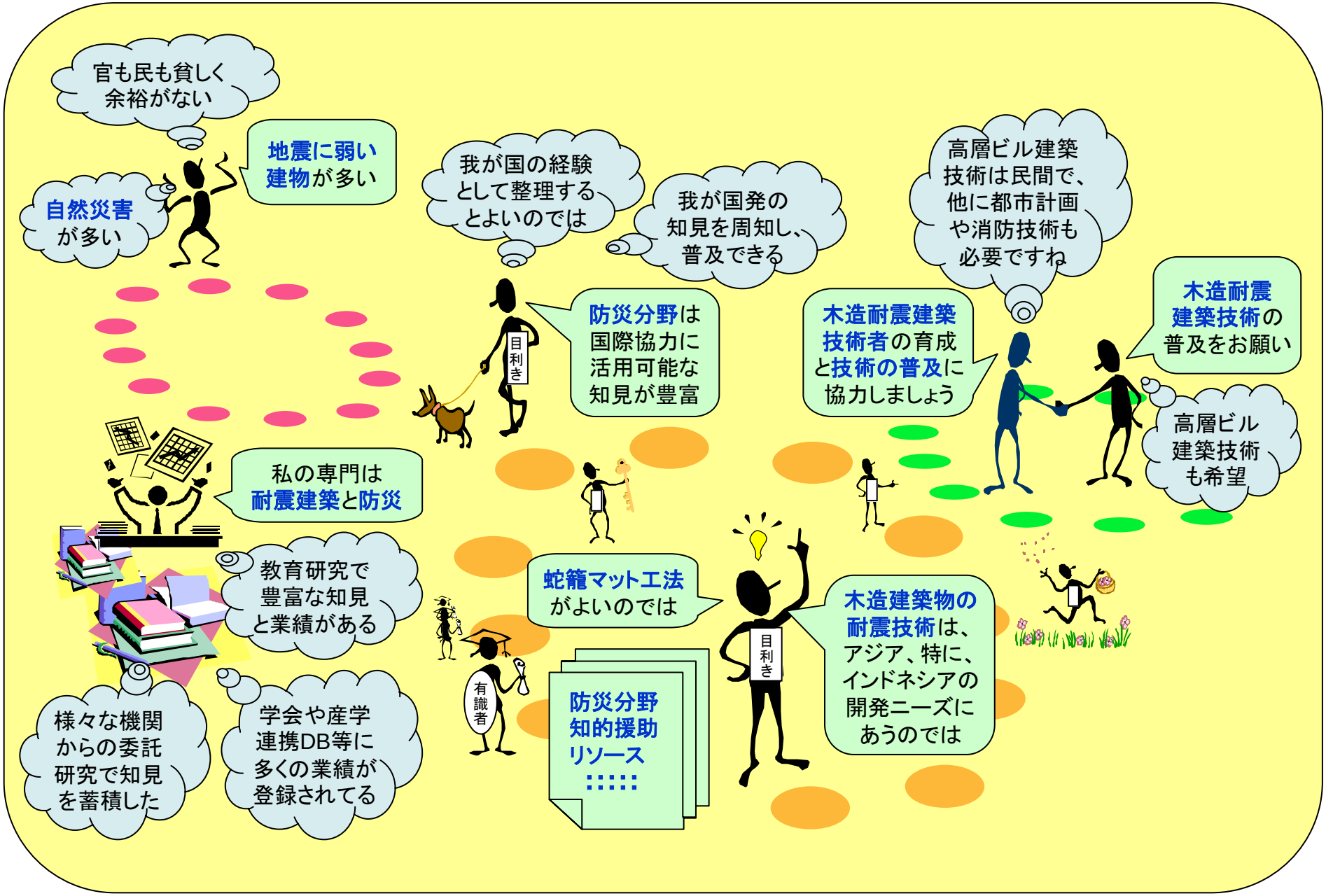
・目利き人材を中心に、途上国の抱える重点開発課題の解決に役立つ大学の「知」（研究成果や高度人材育成機能などの援助リソース）を見抜き一覧化したり、専門的な見地から技術的なアドバイス等を行うことにより、大学にある有用な援助リソースに関する情報を集約

・水資源・防災、資源・エネルギー、農業・農村開発、民間セクター開発、運輸交通、環境管理、保健医療、教育、援助アプローチ・評価等の分野において実施

具体的な業務内容

①途上国や実施機関からの援助ニーズの収集と整理
②我が国の経験の収集と整理
③大学の知的援助リソースに関する情報収集と整理
④援助現場での潜在的な有用性をもつ知的援助リソース一覧の作成
⑤活用可能性を高めるための技術的なアドバイス
　及び実証等に必要な資金の提供に関するアドバイス
⑥援助現場での有用性が高い我が国の大学がもつ知的援助リソース一覧の作成

知的援助リソースの活用に至るまでの流れ（防災の事例）



大学の知の活用促進事業
（経験のオープンリソース化）

・我が国の教育経験や教育協力経験のオープンリソース化などを通じ、途上国協力関係者間の情報共有を推進する。

・我が国において有用性が判明している大学の援助リソース（研究成果や高度人材育成機能など）を、新たに国際協力に活用可能にするための改善・実証等に必要な資金を提供する。

我が国の教育経験の提供

我が国の経験の収集と整理

「拠点システム構築事業」で対象としてきた初等中等教育分野に加え、幼児教育や高等教育分野を対象に、我が国に蓄積されている知見を体系的に整理し提供する

過去の経験や国際的な援助動向を踏まえ、途上国からのニーズが高く、我が国が比較優位を有する分野を選択した上で集中的に取り組むとともに、国内外の援助関係者に対する情報の提供と活用促進を図る

大学の援助リソース活用のための支援

大学の援助リソースのブラッシュアップ（研究成果、教育研修機能等）

大学が科学研究費補助金等、様々な資金を用いて確立している技術やノウハウ、組織活動のうち、途上国での活用効果が高いと期待できる援助リソースに対し、途上国での活用に適したものとなるよう必要なアドバイスや資金の提供をする

大学が有する援助リソースを新たに国際開発協力に役立つようにするため、開発途上国における活用に先立ち、開発途上国の状況を踏まえた改善や適用化、実証・実験を行う

大学の援助リソースの情報収集・提供

援助に役立つ大学の援助リソース（研究成果や高度人材育成機能など）に関する情報の収集及び援助機関等と大学の双方の関係者が情報共有・意見交換できる場を整備することにより、大学にある有用な援助リソースの活用を促進する

ワークショップ

大学関係者との情報交換の場

各大学の強みと援助関係者の援助ニーズについて情報交換・整理する機会を設ける

対象者：
大学、関係省庁、
援助関係者（NGOを含む）、
在日大使館（途上国政府）等

分野別知的ﾈｯﾄﾜｰｸ会合

目利き人材の活動をサポートする有識者が集まる場

分野ごとの膨大な知見について捕捉・整理する

メンバー：
目利き人材、大学関係者、
援助関係者（NGOを含む）等

見　本　市

援助関係者に対し大学が有する有用な「知」を伝える場

援助に有用な大学の「知」をまとめて発表・出会いの場を設ける

対象者：
関係省庁、
援助関係者（NGOを含む）、
在日大使館（途上国政府）等

ご静聴ありがとうございました

なお、国際教育協力懇談会2006報告書は
文部科学省ホームページからも参照いただけます

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/kokusai/003/shiryou/06090103/001.htm